

令和元年度 和歌山県立那賀高等学校 第3回学校運営協議会

1 日 時 令和2年2月14日（金）15:00～17:00

2 会 場 那賀高等学校 応接室

3 出席者 委員7名
事務局及び学校職員4名



4 日 程

(1) 開 会

校長あいさつ

会長あいさつ

(2) 協 議

ア 令和元年度那高キャリア教育支援授業のまとめについて

イ 1年間のまとめと来年度に向けて

ウ その他

(3) その他 諸連絡

(4) 閉 会

校長謝辞

5 資 料

(1) 平成31年度学校評価シート

(2) 那高キャリア教育支援授業アンケート

(3) 令和元年度那賀高校地域貢献・国際交流事業参加生徒一覧

(4) セーラー服の仕様変更資料

協議概要

ア 令和元年度那高キャリア教育支援授業のまとめについて

校長から講師及び生徒のアンケート結果を示し説明

昨年と比較してもどの回答もあまり変化はない。ただ、56人のうち4人の講師が、「生徒の反応が薄かった。」「質問が欲しかった。」等の回答があったことについて、生徒にとって初対面の講師と会話するのにうまく言えないこともある。一方講師は生徒の役に立ちたいと思っているのに無反応だと自分を責めてしまう。一つの原因に、今年から混合名簿になったので生徒は話しづらかったのかもしれない。そこで事前説明について、皆さんに質問したい。

(委員 A) 生徒に一人でも話す子がいたらつられて話す、そうでなかったら難しいと思う。

(会長) そのように思った講師が56人中4人であるならば、率にすれば少ないと思う。大人であっても会話は続かないことが多い。

(委員 B) 会長が言ったように1割というのは起こり得る範疇である。誰しも話の優れた人とは限らない。こちらはアクションをし続ければよいのではないか。

(会長) 講師に前もって那高生の特徴を説明しておけばよい。

(校長) 今後の改善策として、1. 校長から生徒に「勇気を出して質問しよう」と呼びかける。2. 担任からクラス生徒への説明や働きかけを今以上にしてもらう。来年も1回開催で考えている。

(会長) それでは来年も同じような形式で続けることでお願いする。

イ 1年間のまとめと来年度に向けて

校長から学校評価シートについて一年間の評価を説明

那賀高校の重点目標について、3年間を見通した進路計画とその方策の実施ということで、やはり進路保障は本校の大きな役割である。その支えは生徒の勉強である。ただ宿題を無理にやらせるのではなく、学習意欲を喚起して習慣づけるような環境を整備しなければならない。また教室内にとどめるのではなく、「地域に貢献する那高生」を教育目標に挙げて、地域貢献につなげるよう小学校等に出かけている。4つ目には生徒には関係ないが教員の働き方改革をプラスした。

(委員 C) 学校評価シートに関しては形骸化しているかもしれないが、来年度の計画を継続してきっちりまとめて公表することは大事なことである。

(会長) ジグソーパズルのピースと同様で、教職員の一つ一つの取組はそれ自体だけだと見えにくいですが、学校全体で見るととても役立っていることを教職員に理解させることは重要なことである。

(会長) 特に2番の重点目標となっている取組や評価に関して、子供たちにどういう力をつけさせてどういうところを評価していくのか各教科で話し合い、更に職員会議等の中で、職員全体で議論していければいいと思う。

(会長) 3番目の評価はAでいいと思う。

(委員 D) 賛成である。学習支援ボランティアや演劇、英語交流授業等でも小学校に行ってくれてとても評判が良い。

(会長) きちっと評価をして来年に繋げていけば良い。

(会長) 4番目の働き方改革は、教師が全て丸抱えのまま来ている「日本型学校教育」の文化の問題にも関わるのでなかなか難しい。部活動は予算が付いて定期的に講師料を支払って外部の指導者が入ってくるような状況でないといけない。

ウ その他

校長から制服について説明

(会長) 私服にするという回答は圧倒的に反対が多い。これを見ると安心する。昔、海南高校で私服にしたことがあった。学生運動の名残があって反発するような社会的空気があったが半年ほどで学生服に戻った。やはり毎日どんな服を着るか考えるのが面倒だし余計な出費もかかる。

(委員 E) 70%の女子生徒がブレザースカート等を選ぶことができれば良いと答えているのは今後の検討であろう。生地を選ぶのも時間がかかるしバランスなどもある。原材料や染料の具合等も根本的に課題が出てくる。

(会長) 制服は報告である。

一年間ありがとうございました。

